

神奈川県博物館協会会報

第 91 号



2020

神奈川県博物館協会

表紙解説

神奈川県立生命の星・地球博物館の大収蔵庫の様子（a 古生物：b 動物）。収蔵庫の狭隘化は、分野を問わず問題になっている。過密に置かざるを得ない状況により、標本を破損する危険性が高まり、体系的に整理することを困難にする。また、高い棚にまで標本を詰め込むと、標本へのアクセスが著しく制限され、博物館機能を低下させる原因になる。

横須賀市自然・人文博物館の考古資料室（c）は、横須賀を中心に三浦半島内の遺跡から発掘された遺物が収蔵されている。同じく文化財収蔵庫（d）は、国指定重要有形民俗文化財「三浦半島の漁撈用具」を収蔵している。考古資料室がある人文館は1983年に開館し、文化財収蔵庫は「三浦半島の漁撈用具」が国指定になった2年後の1976年に完成した。考古資料室も文化財収蔵庫も、年に数回の公開行事もあるので、それにも耐えられるように苦心しながら収蔵している。

a	b
d	c

神奈川県立生命の星・地球博物館 松本 涼子
横須賀市自然・人文博物館 瀬川 渉